

2022年11月5日（土）

老球の細道699号

ウインターカップ県予選観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

私が高校3年生の時に始まったウインターカップ（旧全国高校選抜大会）の県予選が終わった。優勝は男子福島南、女子は福島東陵でインターハイ県予選と同じ優勝校であった。特に男子は新人大会で優勝した帝京安積がインターハイ予選をコロナで欠場したために、今大会の優勝争いが注目されたが今一步であった。

残念ながら会津地区の夢は今年もかなえられなかった。さらに残念なのは、3日目のベスト8に残っていた会津地区チームは会津高校女子1校のみ。いわき地区、相双地区共に2チームが残っているだけになおさらである。

うれしかったのは会津地区から他地区へ越境している選手たちが各チームの主力で頑張っている姿を見れたことである。特に福島東陵女子のNO5 浅沼早英さん（湊中）、NO52 渡部奈月さん（湊中）、日大東北NO8 松本拓真君（坂下中）、福島商NO16 斎藤諒太君（若松三中）は会津地区協会主催のトップアスリート講習会でミニ、中学と頑張っていたので喜びも大きかった。コーチにおいても会津地区出身の郡山商業女子コーチ桑田哉哉先生が決勝進出を果たし、白河旭に次いで2回目の優勝なるかと期待したが残念だった。

決勝まで残ったチームの素晴らしさを独断と偏見で言えば、シュート力、トランジションの攻防の徹底、そしてディフェンスの激しさではなかつただろうか。特にドライブからのキックアウト、エキストラパスからのシュート力は素晴らしかった。相手チームにビックマンがいたり、ゾーンディフェンスで守られた時には、このシュートパターンが決まらないと勝負にならない。現代バスケットボールのトレンドであり、最後はいつもシュート力である。

現在日本女子ナショナルチームのアシスタントコーチをしている鈴木良和氏（エルトラック）はジュニアユースの指導で、シュート力は70%台の確率で打てる選手を「Good Shooter」、80%台を「Great Shooter」、90%台を「Special Shooter」と呼んでいた。実際のゲームでディフェンスを相手にしてコンスタントに入るようになるには「Great Shooter」以上にならないといけないと言っている。

まずは正しいシュートフォームを確立して、ただひたすら打ち込む。8割から9割入るようになるには3年もかからない。11月2日の朝日新聞「天声人語」に『平成』の墨書をしたためた書家のことが記されていた。

【書家でもある河東純一さん。若い頃は、手本を見ながら同じ文字を一晩中練習したそうだ。明け方には、書き終えた半紙が太ももの高さまで積み上がる。技法の熟練の末に個性は生まれる、が師匠の口癖だった】

バスケットボールのシュート練習もこれと同じである。技術の熟練は芸術もスポーツも同じ。近道はない。飽きずに努力を継続できる能力が最高の才能である。次の大会ではもっとすごいシュート力を見せてくれるチーム、選手が現れることを楽しみにしている。